

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	ビエンチャン県内の3か所の中等学校に建設された図書館が適切に運営され、図書館活動が定着する。 対象校3校とともに、継続的に図書館運営、図書館利用が適切に行われるようになった。図書館応用研修の実践や、図書館オープンデーなどのイベント開催などを通じて、3校全てが自立的に図書館活動に取り組むようになった。
	ビエンチャン県内の3か所の中等学校に設置した図書館が、村教育開発委員会(VEDC)や郡教育スポーツ局(DESB)のサポートのもと持続的に運営される。 学校、VEDC、DESB 合同で、モニタリングが定期的実施され、図書館の利用や運営状況を把握するとともに、年度毎に学校図書館運営計画が策定されるようになり、持続的な運営の土台が出来ている。
(上位目標)	ビエンチャン県において、図書館活動が広がることにより子どもたちの学習環境の質が向上する VEDC が学校と連携して、図書館経営・運営について支援する体制が構築され、学校図書館が教員や生徒に積極的に活用され、かつ適切に運用されるようになった。また、DESB が各校の図書館や VEDC の状況をサポートする体制が定着しつつあることから、事業終了後も学校図書館が持続的に発展し、同郡内の他の学校にも図書館活動が広がり、子どもたちの学習環境の質が向上することが見込まれる。
(2) 事業内容	1) 読書推進活動の応用研修 1-1 サカ中等学校及びヒンフープ中等学校 2 校において、図書館活動定着のため、図書館応用研修 ①図書館サイン・展示 ②授業における図書活用 を実施した。途中、新型コロナウイルスによる学校閉鎖等で、実施時期の延期を余儀なくされたが、サカ中等学校で 2021 年 4 月 20～21 日(研修①)、2022 年 1 月 13～14 日(研修②)、ヒンフープ中等学校で 2022 年 1 月 4～5 日(研修①)、1 月 6～7 日(研修②)に実施した。 研修は、日本人専門家の下田氏を講師として現地に派遣する予定であったが、コロナ禍による渡航規制のため、下田氏とオンラインで繋ぎ研修を実施し、現地で駐在員や現地スタッフがサポートした。 2) モニタリング 2-1 県・郡教育局(DESB)、各村教育開発委員会(VEDC)、各学校(校長・副校長、図書館担当教員)を対象に、モニタリングを兼ねて 3 月 23～25 日にオリエンテーション会議を実施。事業 3 年次の活動計画を共有するとともに、DESB、VEDC と当団体の三者による協定書(MoA)の締結を行った。その後、VEDC と学校が協力し学校図書館を運営していけるように、学校図書館運営計画策定ワークショップ(活動 2-1)を日本人専門家の小林氏とオンラインで繋いで実施した。加えて、学校図書館間のネットワーク構築を見据えて(活動 3-3)、Facebook ネットワーク研修を併せて実施した。 2-2 3 か月に一度の割合で各学校から VEDC に提出される図書館運営報告書を確認した。更に VEDC と DESB と共に学校を訪問し、運営状況のモニタリングを行った(ポンサイ中等学校: 2021 年 8 月 16～

	17 日、2022 年 2 月 9 日、6 月 2 日 サカ中等学校：2021 年 8 月 17～18 日、2022 年 1 月 26 日、6 月 6 日 ヒンフープ中等学校：2021 年 8 月 18～19 日、2022 年 2 月 2 日、5 月 28 日）。 2-3 建設した図書館の建築確認および事業の進捗確認のため、設計監理をおこなった建築家であり、本部事業統括の野口が、2022 年 7 月 6 日に現地で、最終的な竣工検査を実施し、現場確認等を行った。 3) 学校と地域の連携による図書館活動推進イベントの開催 3-1 学校と VEDC の協働事業を定着させるため、両者による地域住民対象の「学校図書館オープンデー」を対象校 3 校の各学校図書館で開催した（サカ中等学校：2022 年 1 月 28 日、ヒンフープ中等学校：2 月 4 日、ボンサイ中等学校：2 月 11 日）。コロナ禍により、参加者の規模を縮小したものの、図書館担当教員が中心となり、地域住民、一般教員や生徒それぞれに向けて、図書館の紹介、図書館展示の披露、授業における図書活用のプレゼンテーションを実施した。 3-2 サカ中等学校で、3 校共催による交流イベントとして「学校図書館交流大会」を 2022 年 4 月 20～21 日に開催した（コロナ禍のため開催日数を 3 日間から 2 日間に縮小）。主催は、県郡教育局・VEDC・学校で、事前に合同会議を行い実施した。1 日目に、学校対抗の「図書館サイン・展示コンテスト」を、2 日目に各校の教員代表が「授業における図書活用」を発表した。今回の実施を第 1 回とし、今後も同県内で開催郡を変えながら当大会を続けていく予定である。 3-3 学校図書館・図書室間のネットワークの育成 対象 3 校ならびに同郡に所在する学校図書室 3 校の計 6 校で、Facebook などの SNS を活用したネットワークグループを開設し、各校の図書館・図書室活動状況の発信、図書館担当教員どうしでの情報交換など気軽に助け合えるようにした。 3-4 3-2 の交流大会の記録集を作成し、県内各郡の郡教育局スタッフから全中等学校に配布した（添付資料参照）。紙媒体の記録集配布に加え、Youtube チャンネルに記録動画をアップし視聴できるようにした。また Facebook ページや SNS グループなどのソーシャルメディアを使ったイベントの報告・発信や啓発も併せて実施した。 4) 終了時評価 4-1 2022 年 5 月 27 日に 3 校の関係者が集まり、評価会議を実施した。その後各学校で活動の振り返りを行い、前年度に策定した運営計画通りに適切に運営されているかどうかを確認し、次年度の図書館運営計画を作成した（ヒンフープ中等学校：2022 年 5 月 28 日、ボンサイ中等学校：6 月 2 日、サカ中等学校：6 月 6 日）。
--	---

(3) 達成された成果	活動 1) 読書推進活動の応用研修 <u>成果(1) 読書推進の図書館プログラムが実施されるようになる。</u> <u>指標(1-1) 各学校図書館で、研修で習得したプログラムが、学期に1回以上実施されている。</u> 各校において、学校図書館オープンデーや交流大会に合わせて、研修で習得した図書館サインや展示を更新していることが確認されていることから、達成されたといえる。 <u>指標(1-2) 一日あたりの平均図書館利用数が全校生徒の12%になる。</u> ポンサイ中等学校：15.5%、サカ中等学校：15.0%、ヒンフープ中等学校：33.8%で、全ての学校で達成された。 <u>指標(1-3) 一日当たりの平均図書貸出者数が図書利用人数の25%になる</u> ポンサイ中等学校：7.3%、サカ中等学校：5.9%、ヒンフープ中等学校：4.2%で、目標を達成することができなかった。コロナ禍で学校閉鎖があり、開館できる日が限られていたため、貸出を制限せざるを得ないことが多かったことが影響していると考えられる。また、図書館担当教員によると、図書を借りて家で読むより、学校の空き時間に図書館内で読む習慣がついているという指摘もあった。 <u>指標(1-4) 研修を受けた教員の70%が図書を授業で活用するようになる</u> ポンサイ中等学校：75%、サカ中等学校：26%、ヒンフープ中等学校：100%で、ポンサイ中等学校とヒンフープ中等学校は達成した。 サカ中等学校は、「授業における図書活用の研修」の実施がコロナ禍で遅くなり、更に学校閉鎖期間が一番多かったこともあり、目標値に到達しなかったが、今後、学校側では研修を受けた先生が受けていない先生に活用のノウハウを共有するなど、学校として授業における図書活用に積極的に取り組む計画である。 活動 2) モニタリング <u>成果(2) 村教育開発委員会と学校の協力のもと、学校図書館が運営されるようになる</u> <u>指標(2-1) 学校が3カ月に一度の割合で報告書を作成し、村教育開発委員会に提出している</u> すべての学校で、3カ月毎に図書館運営報告書が提出できていることが確認された。 <u>指標(2-2) 校長、村教育開発委員会がモニタリングを実施できるようになる。</u> コロナ禍で実施時期の一部延長はあったが、2021年3月、8月、2022年1～2月、5～6月に各校で県と郡の教育スポーツ局同席のもとモニタリングを実施した。当会のサポートは有りつつも、学校（校長、図書館担当教員）と村教育開発委員会で、モニタリングを実施できるようになってきている。 <u>指標(2-3) 学校と村教育委員会のみで、翌年度の図書館運営計画（資金計画を含む）を策定できるようになる。</u> 2022年5～6月にかけて各校で実施した最終モニタリングでは、学校と村教育委員会で、翌年度の学校図書館運営計画を策定し、学校独自の活動計画・予算計画を立てることができている。
--------------------	---

(4) 持続発展性	今回の事業により、郡教育スポーツ局のサポートのもとで、村教育開発委員会（VEDC）が学校と協力し、学校図書館運営を支えていく基盤を作ることが出来た。また、3 カ月ごとの学校図書館運営報告書や年度ごとの学校図書館運営計画の策定を通じ、図書館担当教員が、次年度に購入したい新規図書をリストアップしたり、各学校の状況を踏まえた独自の活動や予算計画を考えたりできるようになるなど、学校と VEDC がオーナーシップを持ち、自分たちの図書館のことを考え自ら運営していく習慣がついてきている。 また事業 3 年次に構築した、図書館担当教員どうしの SNS を活用したネットワークや交流大会を通じて、各学校の図書館担当教員が孤立することなく助け合える環境も生まれている。 当会では、2023 年度から 3 年間、ビエンチャン県のムーン郡とサナカム郡で、更に発展した内容で中等学校図書室を軸とした教育改善事業を展開する予定である（JICA 草の根技術協力事業）。今回の事業対象であるボンホーン郡とヒンフープ郡の 3 つの中等学校と VEDC が手本となり、県内の学校を引っ張っていくように、図書館担当教員の横のネットワークや、県内の学校交流行事などを通じて、県・郡教育スポーツ局のイニシアティブのもと、学校図書館・図書室同士が切磋琢磨できるような環境を作っていく。そして、将来的にはビエンチャン県が、中等学校図書館のモデル県となり、ラオス全県に活動が広がることを目指していく。 このように、本事業の実施により、ビエンチャン県の中等学校の図書館活動を中心となって担っていく 3 校の学校図書館が整備されたことは、今後、県内の中等学校図書館が向上発展し合えるような体制・環境の基礎となっており、持続発展性がみこまれる。
------------------	---